

Meeting Agenda

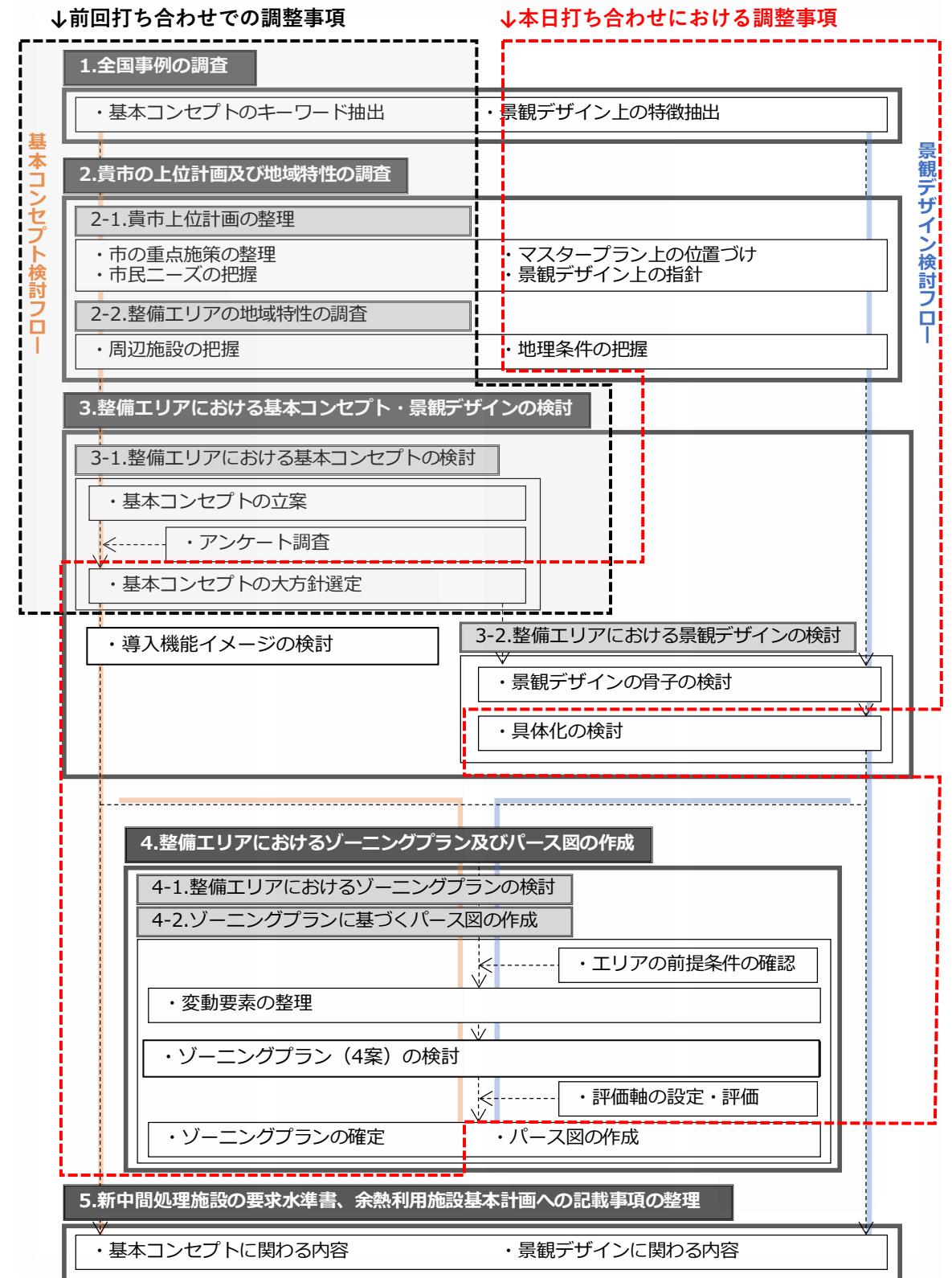
新中間処理施設等に関する整備エリア基本コンセプト等検討業務

- 会議名：第2回 沼津市新中間処理施設等に関する整備エリア基本コンセプト等検討委員会
- 日時：2023年11月30日（木）13:30～15:00
- 場所：沼津市役所 水道部庁舎 1階会議室
- 出席者：
- <事務局>
- 沼津市 生活環境部 新中間処理施設整備室：杉本主任、廣瀬副主任（SJ）
- <検討委員>
- 武蔵野大学工学部建築デザイン学科教授：水谷委員（MK）
- 沼津市 政策推進部 政策企画課：室伏委員（SK）
- 沼津市 産業振興部 ウィズスポーツ課：武田委員（WS）
- 沼津市 生活環境部 新中間処理施設整備室：江藤委員長（SS）
- 沼津市 都市計画部 まちづくり政策課：植松委員（MS）
- 沼津市 都市計画部 まちづくり指導課：伊藤委員（MD）
- 沼津市 建設部 建設デザイン調整室：鈴木委員（KD）
- <業務委託受託者>
- 株式会社日建設計：高津、古賀、高部（NS）

- 開会
- 報告
 1. 検討フロー
 2. 前回の振り返り
 3. 上位計画の整理
 4. 地域特性の整理
- 協議事項
 5. 導入機能のイメージ
 - 市民アンケートと基本コンセプトを踏まえて検討した導入機能についてご確認いただき、導入機能と広場及び両施設との関わり方についてご意見を頂きたく存じます。
 6. ゾーニングプランの検討
 - ゾーニングプラン4案から1案を確定させていただきたく存じます。
- 景観デザインの骨子について（別冊①）
- 今後のスケジュール（別冊②）
- 閉会

1. 検討フロー

以下に本業務の検討フローを示す。



2. 前回の振り返り

2) 基本コンセプトの大方針（案）策定

- * アンケートの結果、基本コンセプト案3案いずれもおおよそ25%得票しており、極端に支持が得られていない案はないことから、どれか一つに絞るという方法ではなく、3案を柱とした基本コンセプトの大方針を新たに策定する。
- * 基本コンセプト大方針については、[2つの施設に共通する考え方] や [3つの柱]、[アンケート 調査の結果（投票・自由記述）] を踏まえて抽出したキーワードを組み合わせることで、基本コンセプトの大方針となるキャッチコピーを策定する。
- * 基本コンセプト大方針の下に据える3つの柱は、アンケートの得票数に応じて①→③の順番で並べる。

2つの施設に共通する考え方

市民に開かれた、人と人が交流できる施設にする

3つの柱

柱① ヒト・コトとの関わりを通じて、子供から大人まで成長できるエリア

柱② 沼津を巡り、沼津らしさを発見・共有するエリア

柱③ 先端技術を活用し、市民交流を促進するエリア

アンケート調査（自由記述）での要望

学び / 遊び / くつろぎ

キーワード①

- ・アンケートの結果最も得票数が多かった案から [関わり] [成長]
- ・アンケートの自由記述より導いた学び、遊び、くつろぎから [公園]、[パーク]

キーワード②

- ・沼津らしさを表す [ポート] [沼津アルプス]
- ・沼津で盛んな [サイクリング] [ハイキング]

キーワード③

- ・沼津の市民憲章である “人の [和] ”
- ・人と人との [輪]
- ・子供や大人が成長していくことで重ねられる [年輪]

キーワード④

- ・ごみ処理施設の特色として [サステナブル] [環境] [リサイクル] 等

基本コンセプト大方針 ※上記2案を組み合わせた案で検討

■前回案



リサイクルから着想し、循環の象徴となるサークルをモチーフに海、山、川の自然豊かな沼津を表現しました。

ワとワとワ。

×

和と環と輪。驚きや笑いの「ワ！」ともとれます。カタカナにすることで、人が笑っているようにも見えます。ひらがなの「と」で間をとりもつことで連動を表現しています。

■投票結果

第1位

⑧



第2位

④



第3位（タイ）

①



第3位（タイ）

⑨



※1位が選ばれた理由としては、ロゴマークだけでは「わとわとわ」の意図が伝わりづらい為、文章で補足したほうが良い等の意見があがった。最終的に市長判断を踏まえて決定する。

3. 上位計画の整理

3) マスタープラン上の整備エリアの位置づけ

基本コンセプトの上位計画の整理の中で、マスタープラン上の景観デザインの方針に関する整備エリアの位置づけを抜粋する。

整備エリアの位置する香貫山周辺地域は「第2次沼津市都市計画マスタープラン」の将来都市構造の中で、《環境調和ゾーン》として、狩野川や香貫山等の貴市の自然資源を保全するとともに、市民の憩いの場としての活用を図ることが求められている。景観上の地域位置づけとしては、「第2次沼津市都市計画マスタープラン」及び「沼津市景観計画」において《緑ゆたかな山地・丘陵地等の景観保全》をする地域と位置付けられている。

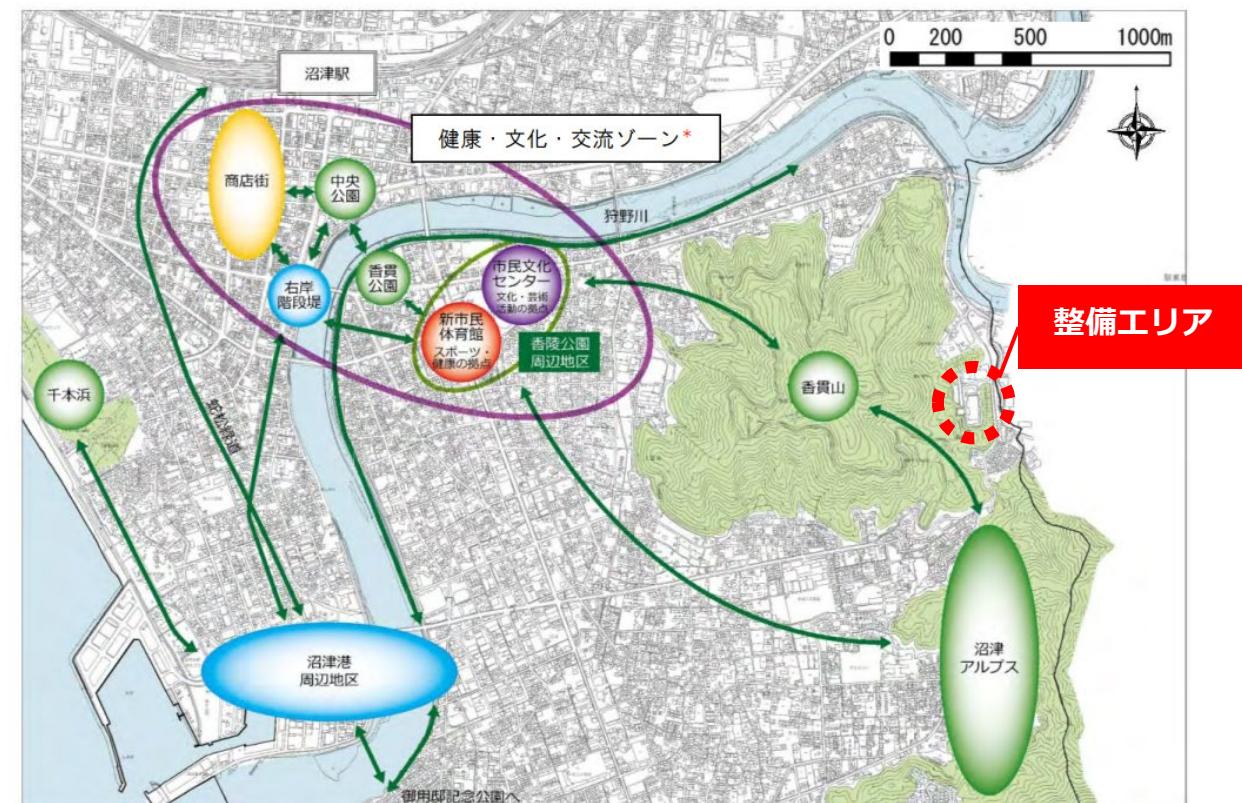


これら整備エリアに係る上位計画の考え方を踏まえ、また新中間処理施設の基本設計の中で《周辺環境と調和した施設》という整備方針があることを加味し、「香貫山の景観を保全し、狩野川からの見え方等周辺環境に調和した」景観デザインを行っていくことが望まれる。

また、香貫山や狩野川を中心とした広域なエリアにおいて、《狩野川を活かした健康・文化・交流機能の強化》が目指されており、具体には以下方策の実現が求められている。

- * 香貫山から沼津アルプス、沼津港から潮の音プロムナードなど海岸線に向かう回遊ルートの形成
- * 歩いて楽しい美しいまちなみと歩行空間の整備
- * 自転車利用を促進する通行帯や駐輪場の整備

健康・文化・交流ゾーン*形成イメージ

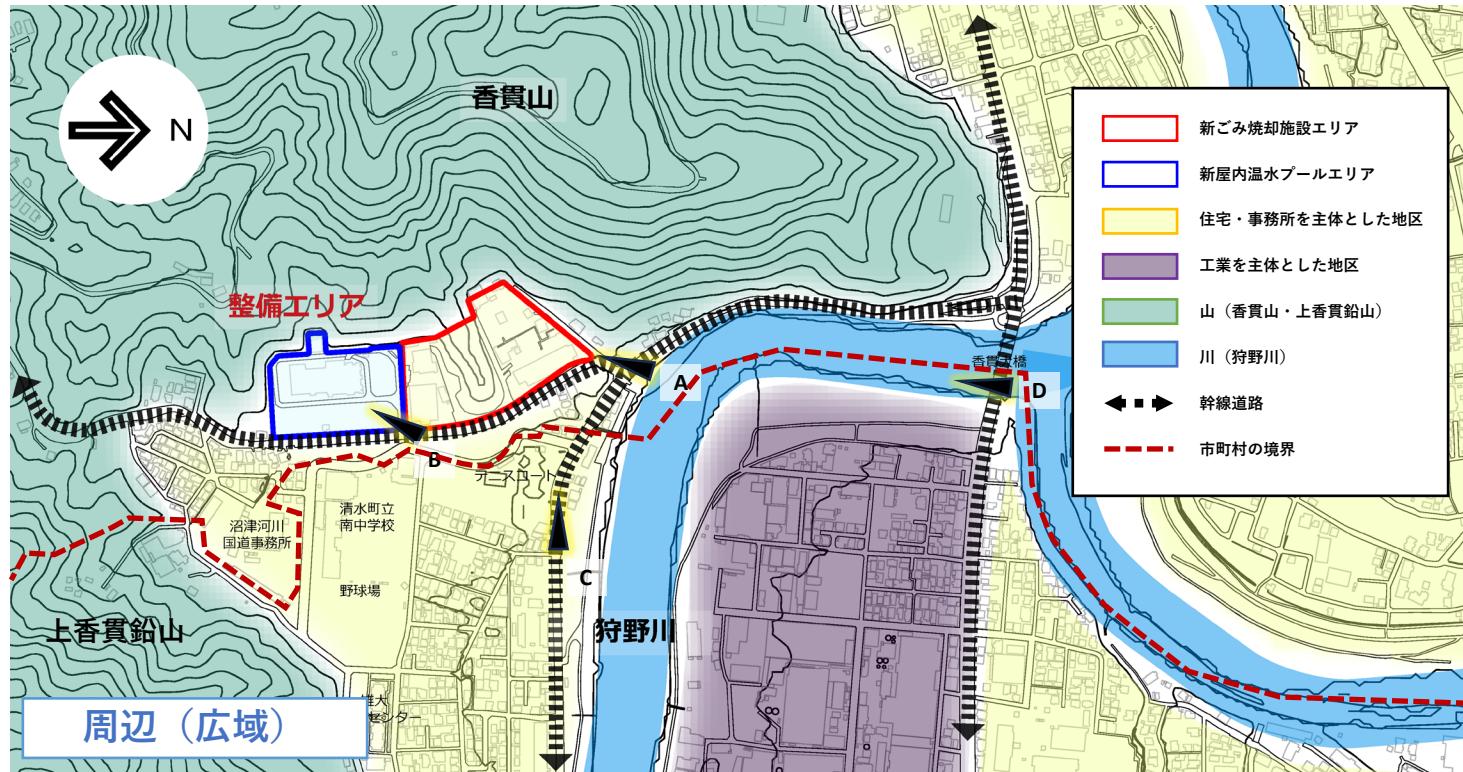


*「沼津市中心市街地まちづくり計画」をもとに作成

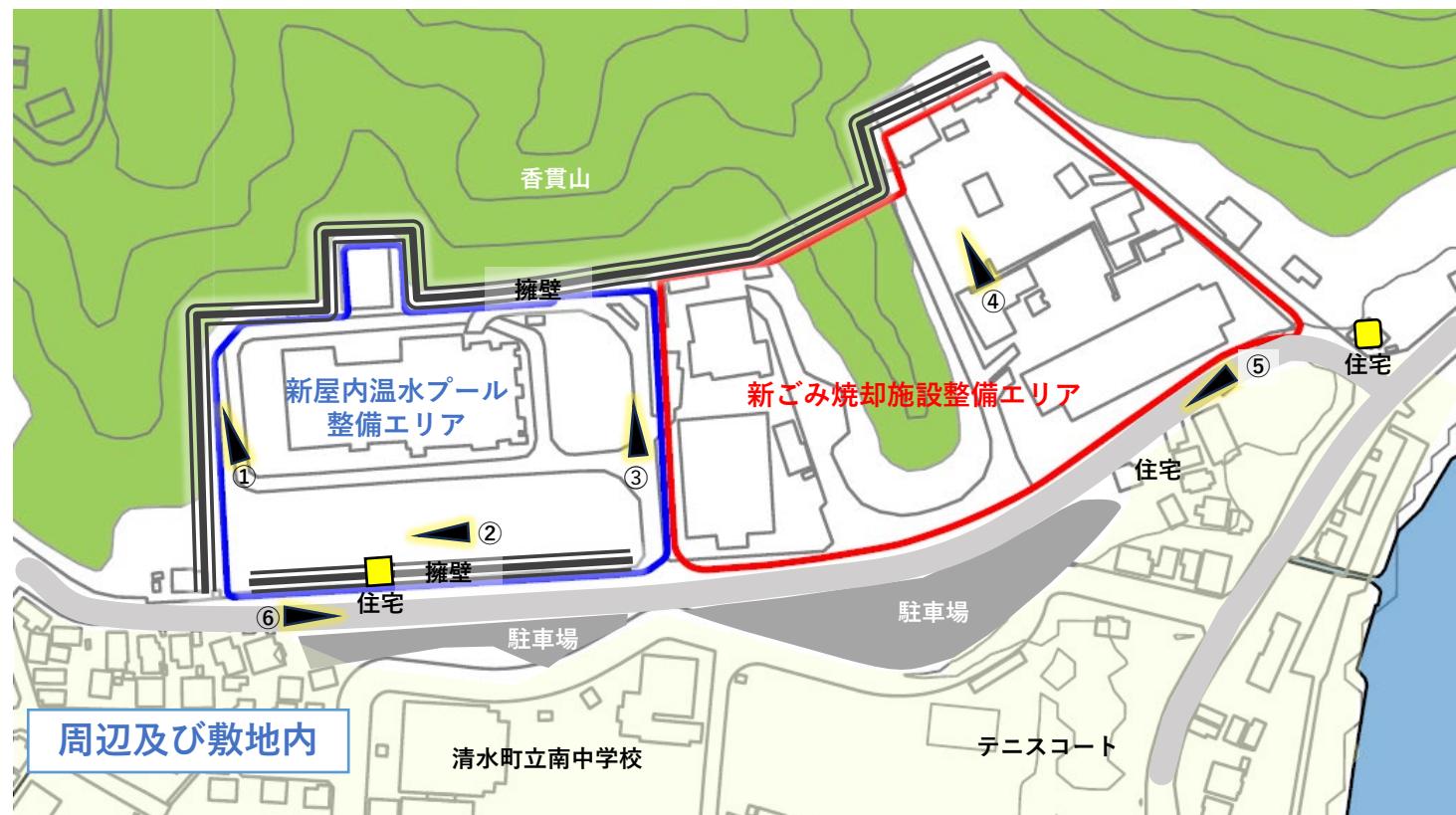
以上の《健康・文化・交流ゾーン》の一端を整備エリアで担う事を鑑み、整備エリアにおいても「歩いて楽しい美しい歩行空間」の他、「自転車利用を促進する通行帯や駐輪場」の整備を行っていくことが望まれる。

4. 地域特性の整理

4-1) 周辺環境と敷地の見え方



幹線道路から前面道路へ入る交差点は手前に住宅があるものの香貫山の稜線が見える。擁壁がある前面道路沿いからはあまり敷地内の状況は見えにくいですが香貫山は常に見えており、敷地入口など擁壁が途切れた箇所からは山だけでなく整備エリアの建物も見えてくる。遠景からの視点としては、幹線道路からは辛うじて香貫山の稜線が見え、狩野川に掛かる香貫大橋から建物を視認することができる。



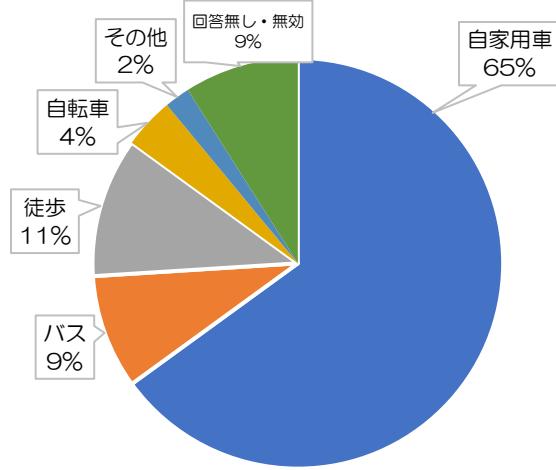
4. 地域特性の整理

4-2) 敷地条件の整理

交通手段別 利用割合

アンケート調査結果によると、市民が整備エリアへアクセスする際に利用する交通手段としては、自家用車が最も多く約65%であった。その他徒歩約11%、バス約9%、自転車4%となっている。そのため、本整備エリアの計画にあたっては、車両動線等を考慮する必要がある。
※徒歩11%となっているが、整備エリア周辺住戸の回収率が高かったことが影響していると考えられる。

一方で、新ごみ焼却施設のごみ搬出入車両アクセスも合わせて考慮する必要がある。



ごみの搬入車両 方面別割合

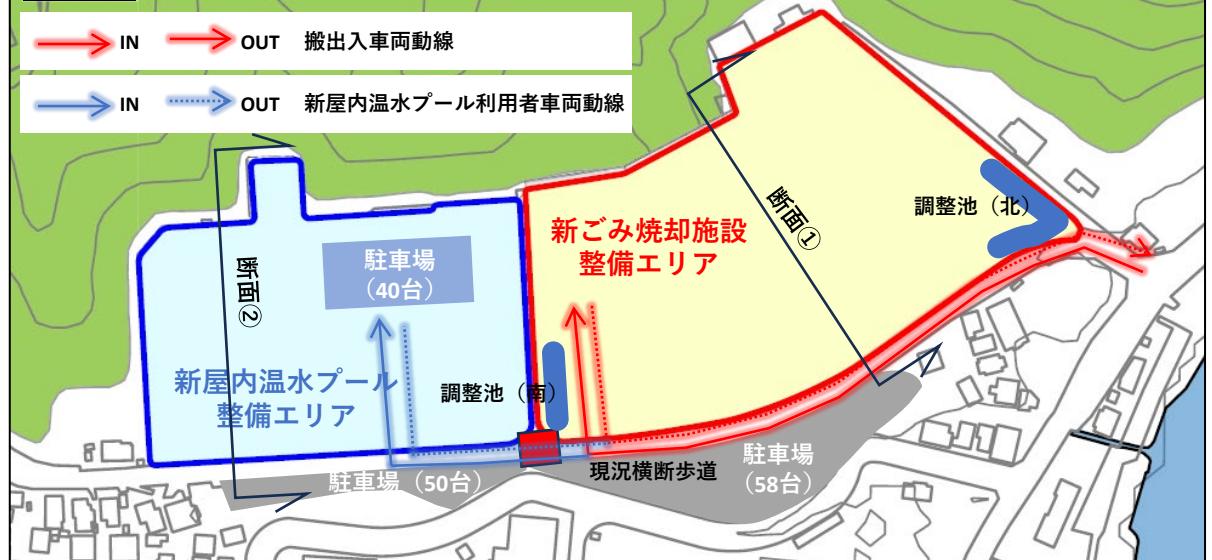
調査によると、北側へ収集へ向かうもしくは北側から処理施設へ向かう収集車両は計304台/日であり、南側は計24台/日であった。割合にして北側：南側＝92.7%：7.3%であり、車利用者のおよそ9割が北側からの右折IN左折OUTとなることが分かる。



進入路の考え方

新ごみ焼却施設側へ進入路を新たに整備予定であり、ごみの搬出入車両と新屋内温水プール利用者車両の出入口を兼用する計画であったが、場内での交錯を防ぐために新屋内温水プール側にも進入路を設けるものとする。但し、新ごみ焼却施設の新しい進入路と新屋内温水プール側にある既存の進入路が近接していることから、北側幹線道路からの車両による右折待ちの渋滞を防ぐために、新屋内温水プール側の進入路を南側に離す必要がある。

* 平面図



車両動線

- 新屋内温水プール整備エリア
 - *一般車両アクセス
新屋内温水プール敷地への来客用車両による主要なアクセスルートは敷地北側。計画地に対しては右折IN・左折OUTが想定される。
 - *乗合バスアクセス
今後検討
- 新ごみ焼却施設整備エリア
 - *搬出入車・一般車両アクセス
新ごみ焼却施設敷地への主要なアクセスルートは敷地北側。計画地に対しては右折IN・左折OUTが想定される。

歩行者動線

前面道路の高低差により、歩行者進入路はスロープもしくは階段となるが、車椅子対応のスロープを設置するとなりの長さが必要となるので、車椅子利用者は基本的には敷地内まで車でのアクセスを前提とし、駐車場からのバリアフリー動線を確保する。現状、旧屋内温水プール前に横断歩道が設置されているが、新屋内温水プール側に駐車場を設置するに伴い、今後1本または2本の横断歩道の整備が必要。

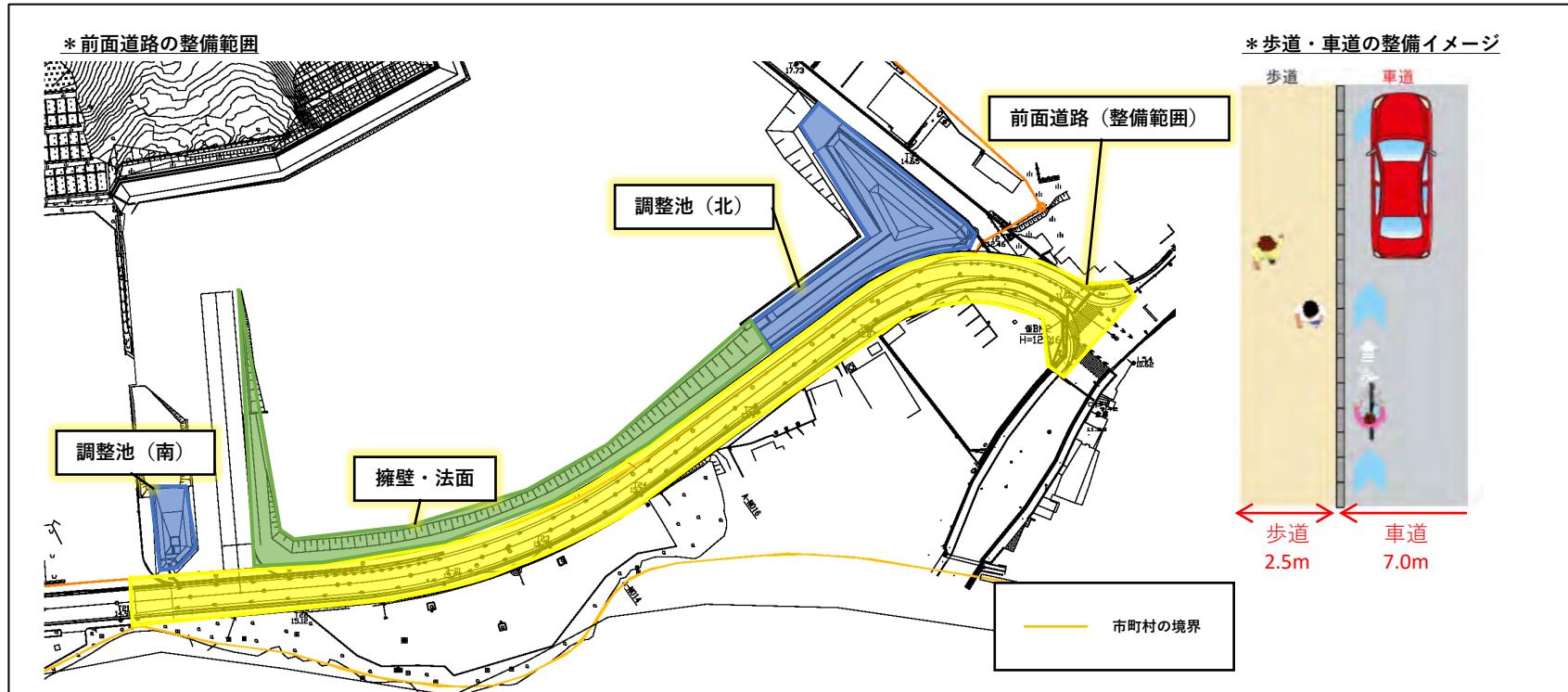
2本の横断歩道を設ける場合、警察庁「交通規制基準」によると「市街地においては、おおむね100メートル以上」の離隔を確保することが望ましいと記載されている。

駐車場の考え方

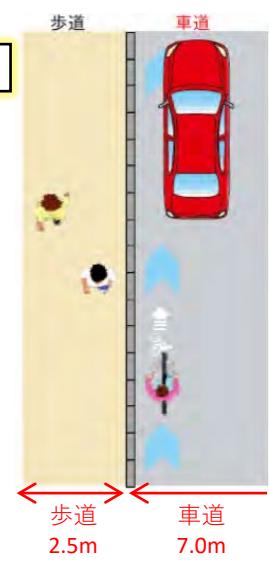
- *新屋内温水プール用 駐車場
元の温水プールと同等の台数(90台)を確保する。来客車両用駐車場が道路を挟んで対岸に整備予定で、50台駐車可能。新屋内温水プール敷地に残り約40台(約1,200㎡)分の駐車スペースを確保する。身体障害者が施設にアクセスしやすいよう、身体障害者用の駐車場は建物そばに設ける。
- *新ごみ焼却施設用 駐車場
将来的に道路対岸の駐車場にゴミ焼却施設職員用に58台分の駐車場が整備される。一般の利用者の駐車場は構内に設置の想定

4. 地域特性の整理

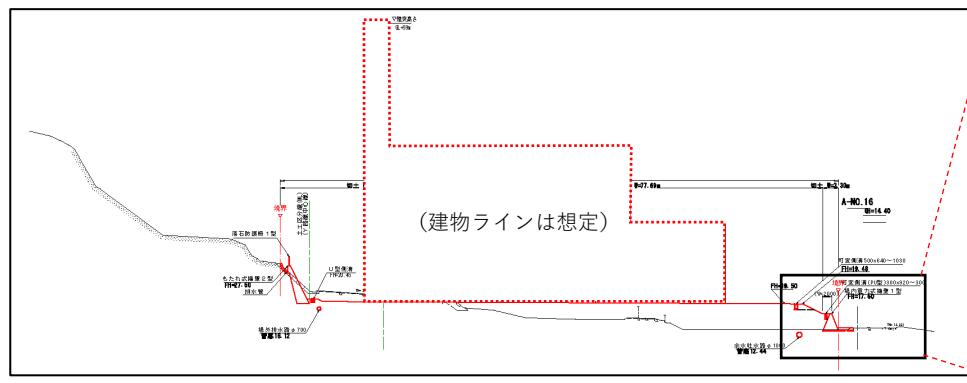
4-2) 敷地条件の整理



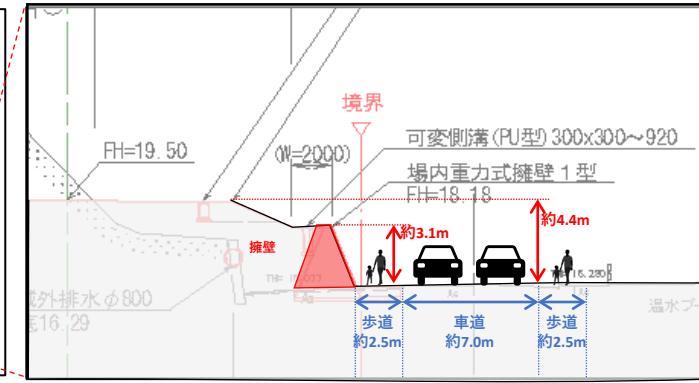
* 歩道・車道の整備イメージ



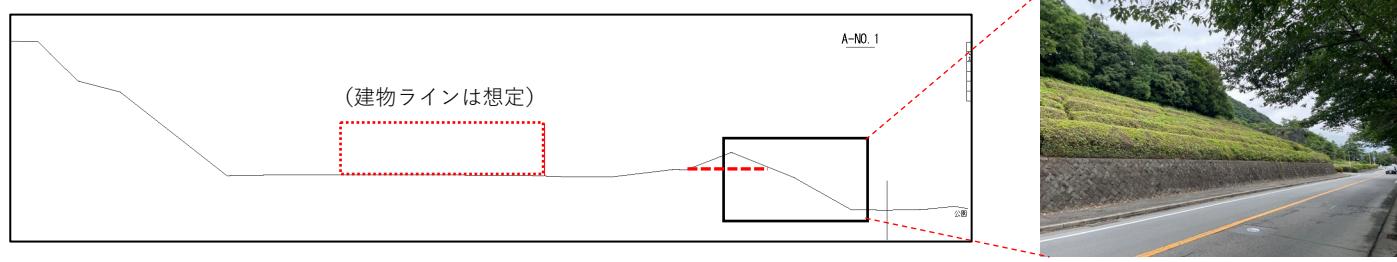
* 断面① [新ごみ焼却施設整備エリア]



* 擁壁断面図



* 断面② [新屋内温水プール整備エリア]



前面道路

新ごみ焼却施設と道路の間に一定の高低差があるため、新ごみ焼却施設の整備と併せて擁壁・法面を整備中。
またそれに合わせて、前面道路の拡幅が行われ、前面道路の真ん中に幅員7.0mの車道、両側に幅員2.5mの歩道が整備される。
車道左側部に自転車通行のピクトグラムを設置する計画となっている。

調整池

新ごみ焼却施設側整備エリアの調整池は計画済み。
①新ごみ焼却施設 (北) 調整池：オープン
②新ごみ焼却施設 (南) 調整池：オープン

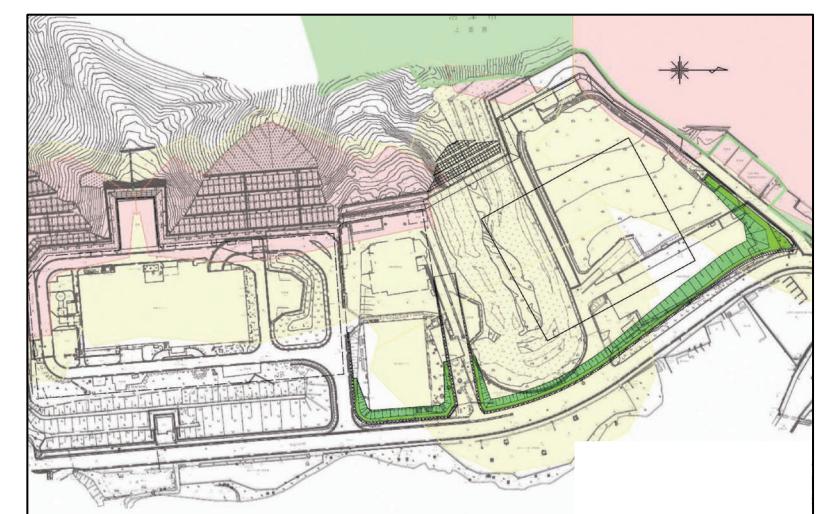
新屋内温水プール整備エリア内にも調整池が必要
⇒オープン式にすると敷地に制限が出るのと、利用者がエリア内を自由に動く前提なので、フェンスを設ける等の安全上の管理も発生するので、原則、埋設式の調整池を想定する。

擁壁・法面 (前面道路側)

新ごみ焼却施設側の擁壁は計画済み。前面道路に対し2~5mの高さとなる。
新屋内温水プール側も前面道路との高低差があるので、擁壁が必要だが、基本的に現況の擁壁・法面を活かしたかたちとする。但し、ごみ焼却施設と異なり、前面道路からの施設の視認性を持たせたいので、法面の高さを押さえる等の検討を行う。

土砂災害対策

新ごみ焼却施設側は現在進行中の造成工事の中で土砂災害特別警戒区域 (レッドゾーン) については解消される予定。
新屋内温水プール側は、よりレッドゾーン範囲が多いため、全域的な解消が必要であり計画の前提となる。



5. 導入機能のイメージ

5-1) 導入機能の検討方針

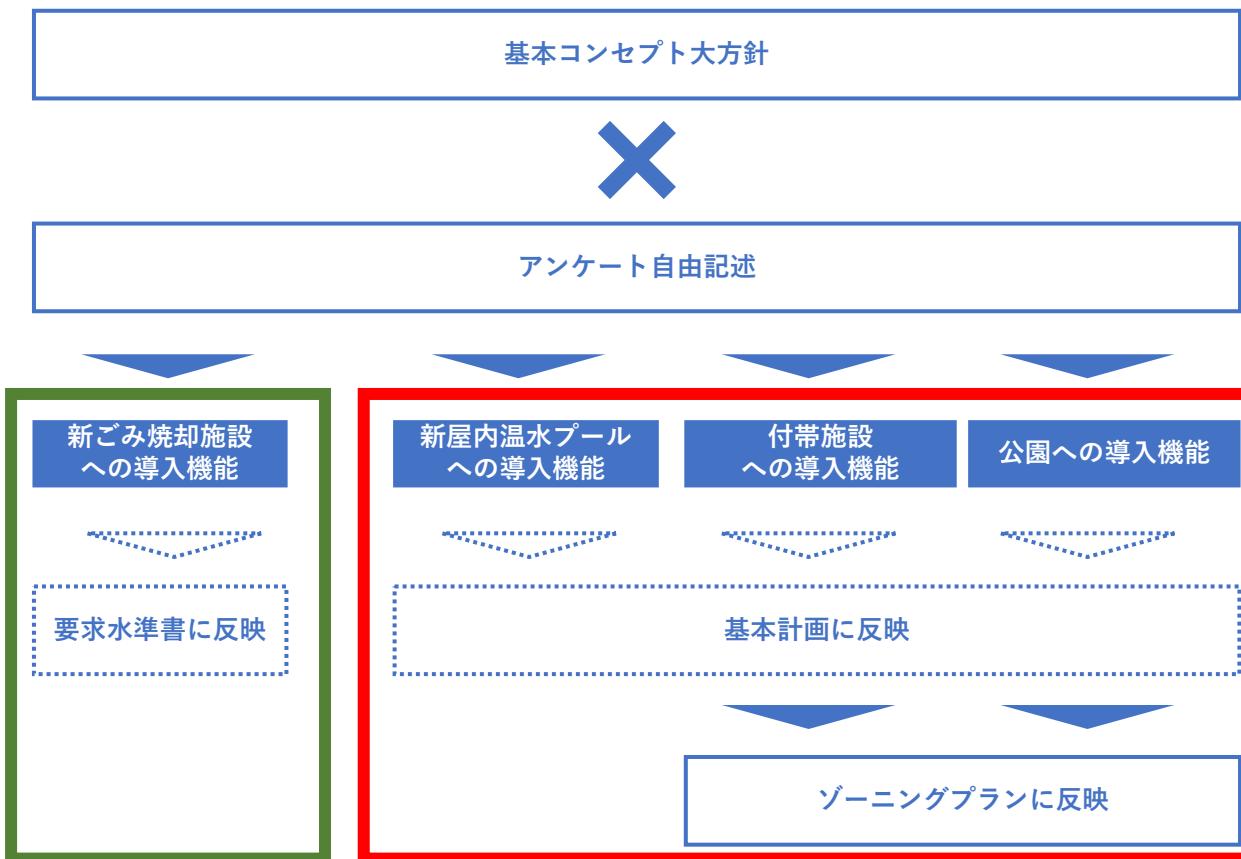
基本コンセプトの大方針及び自由記述にあった各種意見から整備エリアへの導入機能について検討を行う。導入機能の整理にあたっては、整備を予定している〔新ごみ焼却施設〕〔新屋内温水プール〕と、市民アンケートにて要否を確認した〔公園〕とリサイクルショップを初めとした〔付帯施設〕の4カテゴリに分けて整理する。

いずれのカテゴリについても自由記述の中から意見が多い内容で分類し、基本コンセプトと合致し、実現性のある導入機能について案として取り上げる。

公園については、要否に関する意見と公園整備に対する自由記述及びその他関連したから自由記述から導入機能を検討する。付帯施設については、リサイクルショップへの要否に関する意見のほか、自由記述の内容から導入機能を検討する。公園及び付帯施設に対する導入機能は、今後のゾーニングプラン検討に具体的に反映する。

新ごみ処理施設と新屋内温水プールについては、それぞれ要求水準書及び基本計画への参考となる自由記述の内容を分類し、示すものとする。

整備エリアに対する具体的な導入機能について



新ごみ焼却施設
整備エリア

新屋内温水プール
整備エリア

5-2-1) 公園導入に関するアンケート調査結果について

整備エリア内に公園を整備することについて、沼津市民へアンケート調査を行ったところ、全体の77.8%が〔必要〕もしくは〔どちらかといえば必要〕と回答しており、強く設置を臨まれていることが分かる。

（公園整備に関する設問）
問11：整備エリアにおいて、新屋内温水プールと併せて、公園の整備を検討しています。このエリア内において、公園の整備が必要であると考えますか。

No	回答	回答数	割合
1	必要	173件	43.3%
2	どちらかといえば必要	138件	34.5%
3	どちらかといえば必要ない	49件	12.3%
4	必要ない	35件	8.8%
99	回答無し・無効	5件	1.3%
		合計	400件
			100.0%

5-2-2) 公園整備に対する自由記述 回答例

遊具・スペース（アスレチック・水浴び・芝生・ドッグランなど）	97件
水遊びが出来る公園	
ドッグラン	
バスケット、フットサルなどが出来るハードコート	
屋根があると良い	
巨大な遊具がある公園、遊具がある公園、水遊びができる公園	
全天候型（どんな天気でも遊べる）公園	65件
雨の日や真夏でも遊べる所	
雨の日でも利用することのできる屋根のある公園	
直射日光を避ける屋根のようなものが公園のどこかにあればいいかなと思います。	
多世代利用に関する要望（子供でも安心・高齢者も使えるなど）	50件
年齢を問わず、幼い子の遊び場となったり、大人も散歩やランニングができるような公園	
中年男性が一人でも違和感なくいられる、家族連れのごども達が安心して楽しめるを両立しているような空間がある程度分かれてるようなおしゃれな公園	
小さな子供から大人まで利用できるとよい。遊具がある公園が減っているので大勢でも利用できる遊具がよい。運動する大人には運動器具も置いていただけるとうれしい。	
その他（駐車場・駐輪場など）	37件
駐車場が広くて、子どもを連れて行きやすい公園	
ごみとして出された木材で遊歩道を造ったり、ごみを肥料として農園を造り野菜を育ててできた野菜を公園の中に、造設されたレストランで使用するというそんな公園ができたらうれしいです。憩いの場で無料休憩の出来る建物。出来たらシャトルバスも。	

公園への導入機能の要望は、遊具・スペースに関するものが一番多いが、機能としては様々な意見があった。公園として大型の遊具を設置するだけでなく、集客性のあるバスケット・フットサル等のコートやクライミングウォール、ドッグラン、天候に左右されない屋内・半屋外空間で遊べる・楽しめる場所が導入機能として考えられる。

5-3-1) リサイクルショップ導入に関するアンケート調査結果について

粗大ごみとして収集した家具や自転車等を再生・加工し、販売する施設であるリサイクルショップについて、沼津市民へアンケート調査を行ったところ、全体の85.5%が「必要」もしくは「どちらかというが必要」と回答しており、設置を強く望まれていることが分かる。

(新中間処理施設に関する設問)
 問4：市民の皆様への環境啓発を促すため、新ごみ焼却施設での付帯機能の一つとして、リサイクルショップの導入を検討しています。リサイクルショップとしての機能を備えることについて、環境啓発のために必要であると考えますか。
 ※リサイクルショップとは…粗大ごみとして収集した家具や自転車等を再生・加工し、販売する施設のこと。

No	回答	回答数	割合
1	必要	193 件	48.3%
2	どちらかというが必要	149 件	37.3%
3	どちらかというに必要ない	23 件	5.8%
4	必要ない	21 件	5.3%
99	回答無し・無効	14 件	3.5%
合計		400 件	100.0%

5-3-2) 整備エリアについての自由記述 回答例

A 売店・飲食店・休憩所 62件

休憩所、売店

 道の駅 産直市場があるといいです。それに温泉施設

 沼津の美味しいものをその場で食べられるような沼津をもっと知って好きになれるスペースが欲しいです。名物だけでなく地元の個人経営の店のものとかも置いてほしい。登山客向けに足湯とか。

B サイクリング・ウォーキング・ハイキング 21件

香貫山ウォーキングコース、狩野川サイクリングコースの拠点としての休憩設備

 沼津アルプスにクライミングをしに来た方向けに、クライミングウォールが欲しい。(リード、ボルダー共に)

 沼津市の自然・観光資源として現時点でも力を入れている沼津アルプスやサイクリングと結びつける機能

自転車の町になるべく、サイクリングステーションなど伊豆方面へ向かう自転車の基地に関する施設。伊豆方面に行くサイクリストはだいたい焼却場の近くの道路を通ります。

C 屋外レクリエーション(スポーツ施設など) 51件

バスケットコートが欲しい。ハードコート

 小田原のごみ処理施設には植物園があったと記憶しています。そのような施設が沼津にもあったらよいなと思います。

 桜など四季が感じられる植樹をして欲しい

 市民が使える周りの環境からみて自然の中でのBBQ施設など

 高齢者が体力作りやお友達交流できるような遊具を備えた憩いの場。

 沼津には遊具が充実した公園がないのでであると良いです。

D その他(駐車場・駐輪場・防災施設等) 42件

しっかりした規模の駐車場・駐輪場

 土砂災害警戒区域である香貫山の整備が必須！災害発生時の復旧の拠点ならびに避難所。

 災害時の一時的でも良いので避難所(体育館のような施設)・ホールにしておけば多目的に使えると思います。

 各種展示エリアが欲しい(絵画・草木・趣味など)

E 新ごみ焼却施設への整備要望 7件

F 新屋内温水プールへの整備要望 18件

5-4) 市民アンケートによる付帯施設・公園への導入機能のまとめ

付帯施設・公園に関する導入機能のうち、基本コンセプトの大方針及び意見が多かったものから実現性のある導入機能について、以下のように取り上げた。

■付帯施設

- * 売店・飲食店・休憩所
- * サイクリング施設、登山客向け施設等
- * リサイクルショップ・工房

■公園

- * 大きな遊具
- * 全天候型の屋内/半屋外施設
- * バスケット等のハードコート

なお、1つに絞るのではなく、機能を複合する、新ごみ処理施設や新屋内温水プールに併設することも考慮する。

※付帯施設としてリサイクルショップ・工房(及び展示スペース)を新屋内温水プール整備エリアに設置する場合、不燃・粗大ごみ処理施設の一部として想定されるが、同一敷地内であれば、余熱利用施設と一体・別棟であろうと該当面積分は交付金対象とすることができる。循環型社会形成推進地域計画の中で、リサイクルショップ・工房等も盛り込んでおく必要がある。

但し、竣工時期が大きく異なる場合は、別事業とされる可能性が高いので確認が必要である。

5-5) 付帯施設の設置方法について

本整備エリアに対して導入する付帯施設は、新屋内温水プール整備エリア内に設置する想定だが、新屋内温水プールと一体的に整備（一棟）するか、完全に別棟として整備するか検討する必要がある。どちらもそれぞれメリット・デメリットがあることから、以下の表で整理した。

表. 付帯施設を一棟にした場合、別棟にした場合のメリット・デメリット

	一棟	別棟
配置計画	導入する機能によっては、建物配置に制限がでる。	建物配置の自由度が高い。
建築計画	導入する機能により入口等が複数必要となるなど、プランニングで配慮が必要である。 トイレなど共用施設が一緒に使える。	別棟の為、導入機能にプランニングが縛られない。 トイレなどを個別に設置する必要がある。
歩行者の移動	天候に左右されず建物内を自由に移動できる。	外部を移動することになるので雨や猛暑の場合は、パーゴラやキャノピーを設けるのが望ましい。
導入用途	屋内プールと親和性のあるものが望ましい。	屋内プールと親和性である必要はない。
管理運営	複数事業者となった場合は、セキュリティや区分等の調整が必要。 建物の維持管理対象は1つで済む。	複数事業者となった場合においても、管理運営が容易。 建物の維持管理対象が複数となり手間がかかる。

付帯施設の導入機能として先に取り上げたもののうち、売店・飲食店は、機能として望まれているものの、営利目的での営業を考えると、立地性の課題や、運営事業者の選定等乗り越えるべきハードルが多く、現時点で設置の判断ができない。なお、プール施設に付属するかたちで飲食スペースは設ける想定である。

一方で、サイクリングや登山で訪れる人々だけでなく、公園・広場の利用者への休憩所は必要であり、例えばシャワーや浴室を使用できれば施設の利用率アップにもつながると考えられる。かつ、整備エリアは香貫山や狩野川に囲まれた場所であることから、サイクリングや登山において起点・結末点となりうる場所であり、その利便施設を設けるのは市の上位計画との整合も図れる。

リサイクルショップ・工房については、新ごみ処理施設への意識を向けてもらうと同時に一体整備の利点を活かす為にも、新屋内温水プールエリア側にサテライト施設として設置が望ましいと考えられる。

これら付帯施設に関して、プール側機能との兼用やプール利用者等の目に多く触れてもらうことを目的とするならば、**同じ建物内での設置が望ましいと思われる。**

5-6) 付帯施設・公園の方針について

導入機能及び設置方法について検討した結果、今後も要検討ではあるが、今回のゾーニングプラン・パース作成においては、新屋内温水プール整備エリア内に設置する付帯施設及び公園・広場については以下方針とした。

■付帯機能：

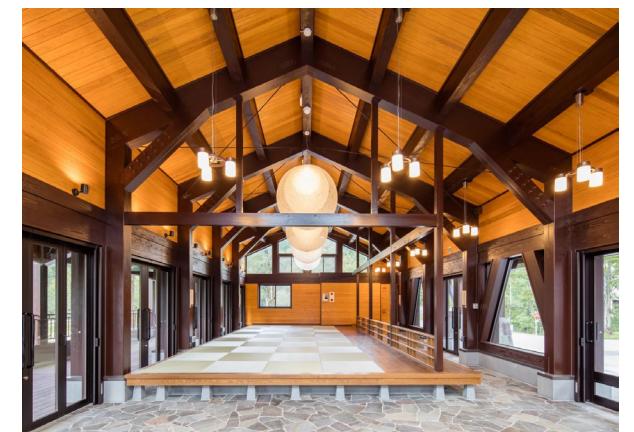
- 新屋内温水プールと併設（一棟）
- ①サイクリング・登山あるいは公園でスポーツをする方向への休憩所・採暖室
- ②リサイクルショップ・工房

■公園・広場：

- 広場スペースを基本とした大きな遊具を設置
- 半屋外施設については今後検討



休憩室のイメージ
(りんりんポート土浦)



休憩所のイメージ
(白山国立公園市ノ瀬休憩所)



リサイクルショップのイメージ
(町田市バイオエネルギーセンター)



大きな遊具のイメージ
(長浜海浜公園)

6. ゾーニングプランの検討

ゾーニングプランについて検討を行う。新ごみ焼却施設は事業者による提案となるので、バリエーションを考えるのは新屋内温水プール整備エリアとなる。ゾーニングに当たっての変動要素としては、新屋内温水プール・付帯施設、公園・広場、駐車場・車寄せの各施設の配置と進入路（車路）の位置となる。

配置検討に当たって、使いやすさやバリアフリーの観点から、水谷先生より頂いた意見に基づき、

①車路・駐車場でプールと公園・広場を分断させない、

②駐車場・車寄せから新屋内温水プールへ直接アクセスでき、歩行者が雨に濡れないようにする

以上、2つの条件を設定し、各配置パターンを検討する。

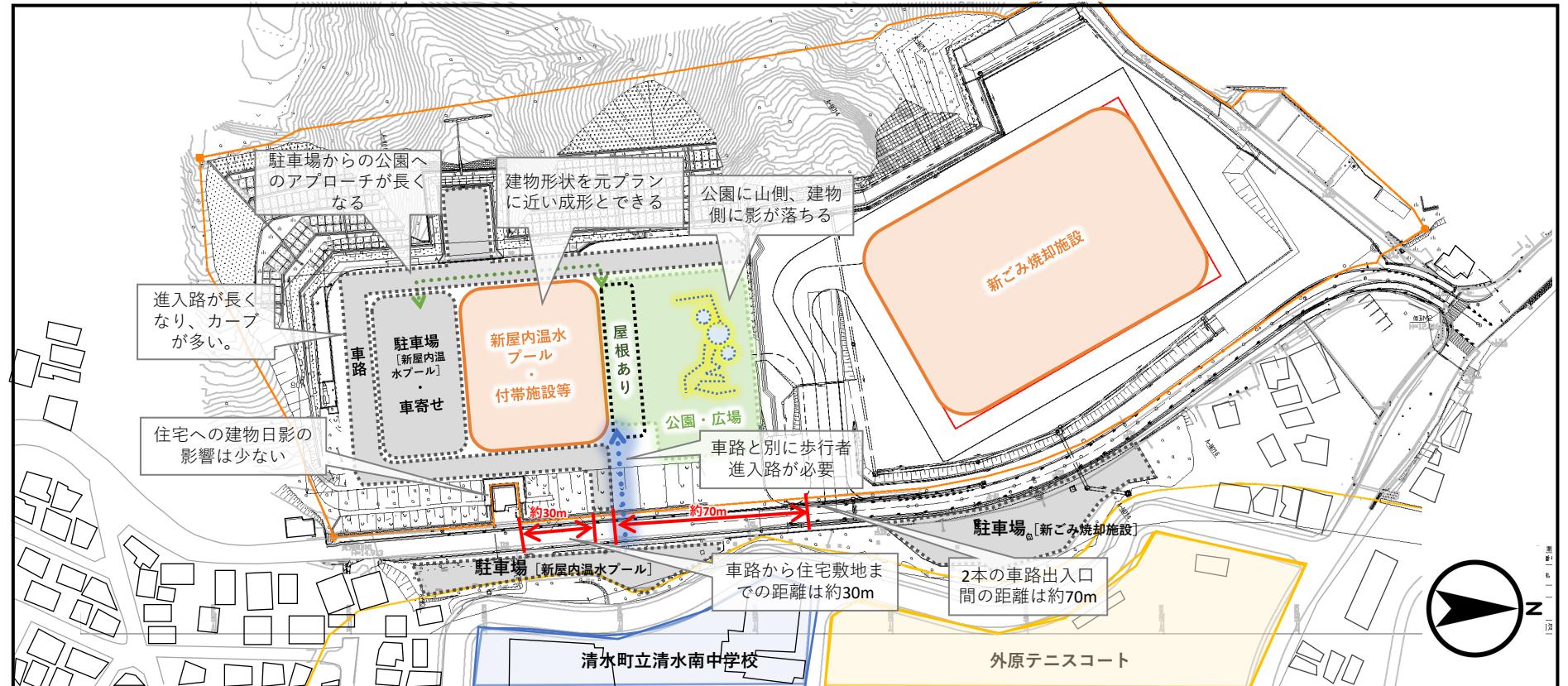
なお、各施設の配置を検討する際は、新屋内温水プールに付加機能を見込んでボリュームを想定する。進入路の位置は、住宅との近接を避ける、新ごみ焼却施設の進入路と離隔をとる、という条件がある。日影規制は、新ごみ焼却施設側は道路を挟んで東側住宅地に対して、新屋内温水プール整備エリアは整備エリア南東の住宅に対して、用途地域が第2種住居地域（将来的に準工業地域）のため、高さ10m未満の建物であれば対象とならないが、影響の確認は行う。

比較表	案①	案②	案③	案④
施設配置	プール・付帯施設 : 中央 公園・広場 : 北側 駐車場・車寄せ : 南側	プール・付帯施設 : 南東側 公園・広場 : 北側 駐車場・車寄せ : 南西側	プール・付帯施設 : 北側 公園・広場 : 南東側 駐車場・車寄せ : 南西側	プール・付帯施設 : 南側 公園・広場 : 南東側 駐車場・車寄せ : 南西側
建物形状 (新屋内温水プール)	・建物形状を元プランに近い成形とできるため建物内の計画が容易 ○	・建物形状が若干細長くなるため、元プランに対して調整が必要 △	・建物形状を元プランに近い成形とできるため建物内の計画が容易 ○	・建物形状を元プランに近い成形とできるため建物内の計画が容易 ○
公園・広場と建物の一体利用	・新屋内温水プールと接する面を大きく確保できるため、一体的な利用が可能 ・新ごみ焼却施設と近接するため一体利用が可能 ◎	・新屋内温水プールと1面は接するが、面積が限定されるため、一体的な利用が難しい ・新ごみ焼却施設と近接するため一体利用が可能 ○	・新屋内温水プールと接する面が限定されるため、一体的な利用が難しい ・新ごみ焼却施設との一体利用は難しい △	・建物と接する面が限定されるため、建物との一体利用が難しい ・新ごみ焼却施設との一体利用は難しい △
車両アクセスの安全性	・車路が長く、カーブがあるため安全性が低い ・進入路と住宅との距離を約30m、両施設の入り口の距離を約70m確保可能であるため安全性が高い ○	・車路が長く、カーブがあるため安全性が低い ・進入路と住宅との距離を約30m、両施設の入り口の距離を約70m確保可能であるため安全性が高い ○	・車路は直線で短いため安全性が高い ・進入路の位置が前面道路南側カーブ後すぐの場所となり、手前南側の住宅との距離も約20mと短いため安全性が低い △	・車路は直線で短いため安全性が高い ・進入路と住宅との距離を約70m、両施設の入り口の距離を約30m確保可能であるため安全性が高い ◎
歩行者アクセスの容易性	・駐車場から公園への動線が長くなる △	・駐車場から公園へ直接アプローチ可能 ○	・駐車場から公園へ直接アプローチ可能 ○	・駐車場から公園へ直接アプローチ可能 ○
日影の影響	・公園・広場に山・建物から影が落ちる ・東側住宅に対して建物日影の影響は少ない ○	・公園・広場に山・建物から影が落ちる ・東側住宅に対して建物日影を配慮する必要がある △	・公園・広場に山・建物からの日影はほぼない ・東側住宅に対して建物日影の影響はない ○	・公園・広場に建物から影が落ちる ・東側住宅に対して建物日影を若干配慮する必要がある △
施設の視認性	・公園・広場から両施設を一望できる ◎	・公園・広場から両施設を一望できる ◎	・公園・広場からはプール越しでないと、新ごみ処理施設を見ることができない △	・若干距離があるが公園・広場から両施設を一望できる ○

6. ゾーニングプランの検討

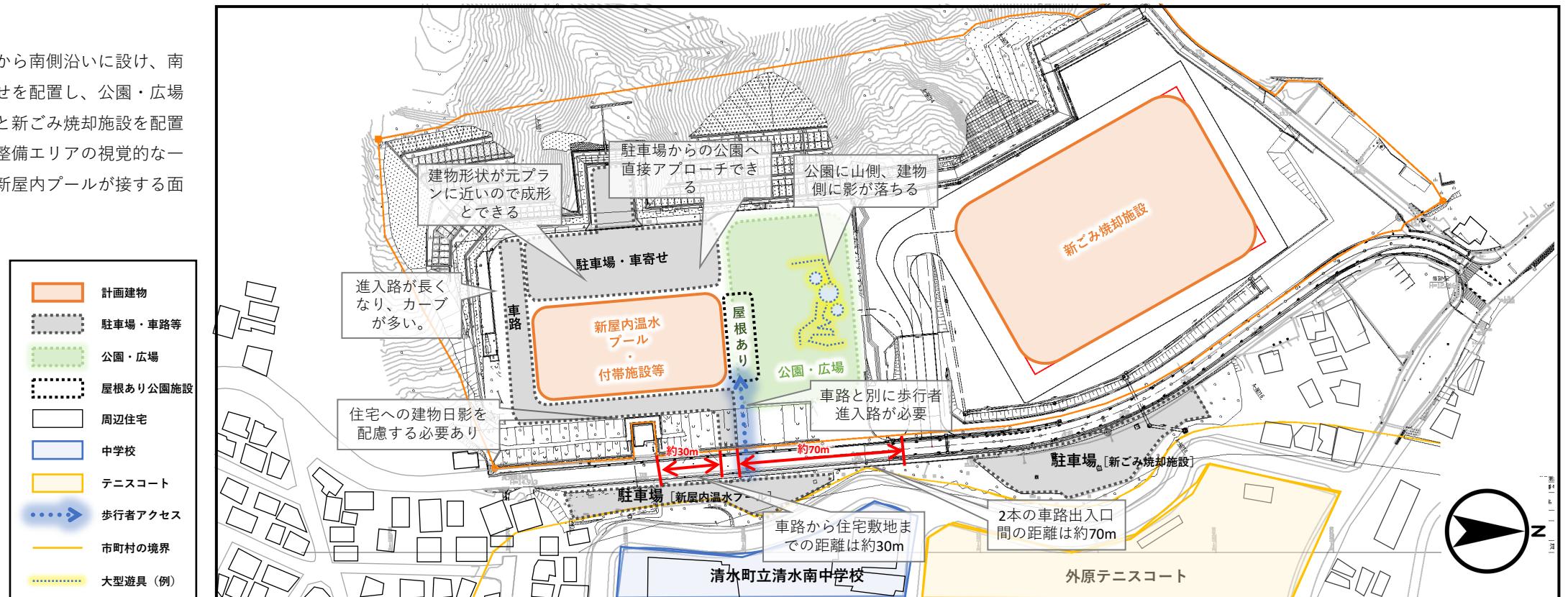
案①

敷地への進入路を敷地東側から南側沿いに設け、南側を駐車場・車寄せを配置し、公園・広場を挟んで新屋内温水プールと新ごみ焼却施設を配置した案。公園を中心に、両整備エリアの視覚的な一体感を得られる。



案②

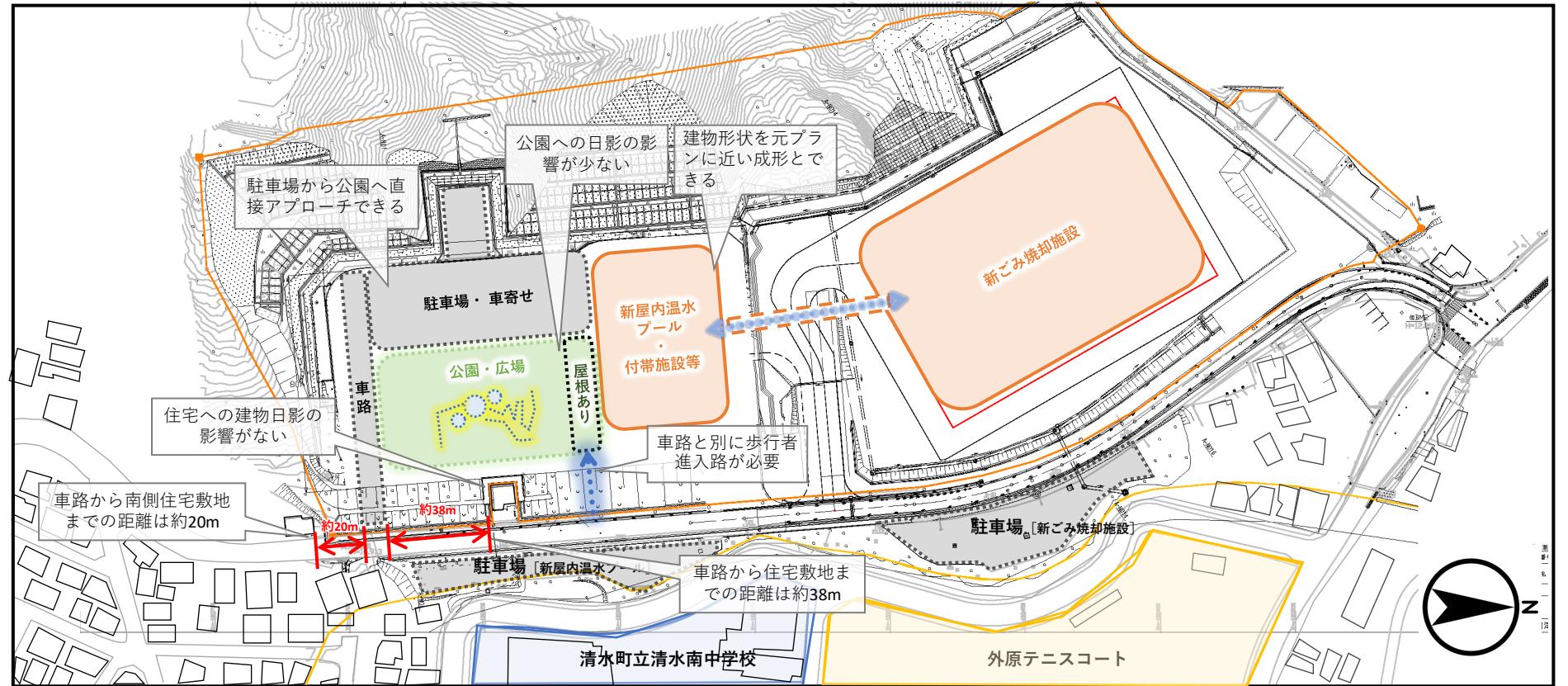
敷地への進入路を敷地東側から南側沿いに設け、南側及び西側に駐車場・車寄せを配置し、公園・広場を挟んで新屋内温水プールと新ごみ焼却施設を配置した案。公園を中心に、両整備エリアの視覚的な一体感を得られるが、公園と新屋内プールが接する面は短い。



6. ゾーニングプランの検討

案③

車路を南側とし、山側に駐車場・車寄せを新屋内温水プール及び付帯施設を新ごみ焼却施設側に寄せた案。公園・広場からは新屋内温水プール越しで新ごみ処理施を見ることになるため、来場者からの視点では整備エリアの一体感が弱い。



案④

車路を北側とし、山側に駐車場・車寄せを配置し、南側に新屋内温水プール及び付帯施設を設置した案。公園を中心に、両整備エリアの視覚的な一体感を得られる。

